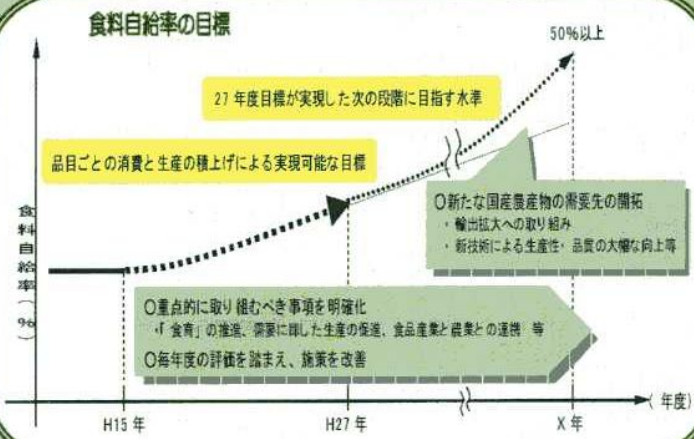
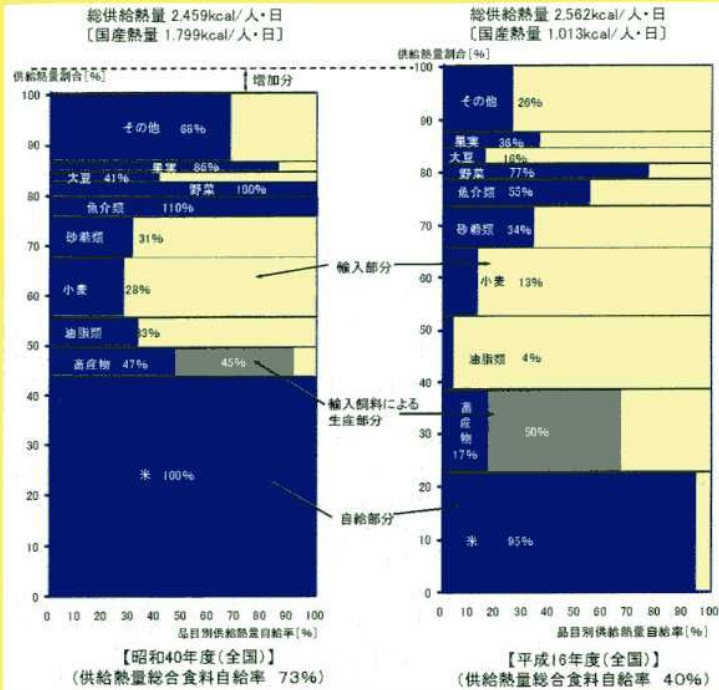


1 東北における食料自給率向上に向けて

我が国のカロリーベースの食料自給率は、昭和40年度は73%でしたが、平成10年度以降は40%で推移しました。この原因は、米の消費減少が進み、国産割合の低い畜産物や油脂類の消費が増加するなど、食生活の変化が影響しています。

右のグラフは、縦軸が品目別の1人1日当りの供給カロリーの割合、横軸が国産の農産物によりどの程度まかなえるかを示したものです。



食料自給率は、将来的にカロリーベースで5割以上とすることを目指しつつ、平成27年度には45%にすることを国の目標としています。

また、カロリーベースを基本としつつも、生産額ベースについても、平成27年度には76%にすることを国の目標としています。

東北の食料自給率は、全国に比べるとかなり高い水準になっていますが、各県とも米を除いた自給率は低水準となっています。

平成16年度東北各県の品目別カロリーベース自給率

県別自給率	(単位%)											
	米	米を除いた自給率	小麦	大豆(食用)	野菜	果実	牛肉	豚肉	鶏肉	牛乳・乳製品	魚介類	
青森	117	302.1	80	6.7	43.6	245.7	490.9	26.2	21.1	38.2	24.6	292.0
岩手	106	327.3	38	9.9	35.2	98.5	74.2	33.0	20.5	96.6	79.5	180.0
宮城	83	282.7	28	4.3	67.3	41.8	7.6	16.9	6.6	6.7	28.6	210.0
秋田	141	548.0	17	1.2	71.4	83.8	49.3	7.7	14.8	1.1	14.0	15.3
山形	122	451.4	22	0.2	73.4	116.6	133.5	18.9	10.4	3.4	34.5	11.1
福島	85	301.2	19	1.1	26.4	97.4	75.1	18.5	7.6	5.3	24.0	54.0
東北	104	344.1	30	3.9	51.5	107.0	125.0	20.1	12.4	23.0	33.3	135.8
全国	40	95.2	23	13.2	15.6	77.0	35.6	11.7	5.4	7.5	28.0	55.3

資料：農林水産省「食料自給率レポート」を基に東北農政局で試算

東北地域食料自給率向上協議会の取組

35の団体（東北農政局、東北の6県、6県JA中央会、農業者団体、食品関連団体、消費者団体、経済団体）の連携の下、消費、生産の両面から、東北地域の食料自給率向上に向けて取組んでいます。

【協議会全体の取組】

- 食料自給率向上に向けた総括シンポジウム（仙台市内 時期未定）
「子育て世代」をターゲットに、食料自給率向上への啓発を図るためのシンポジウムを開催。
- 東北地域食料自給率向上協議会の開催（仙台市内 6月、2月予定）
協議会構成員が一堂に会して、構成員が相互に連携した取組体制を強化。
- 各県のイベントにおける食料自給率向上の取組
農業祭等の各県が主催で行うイベントにおいて、食料自給率向上についてPR。

【構成員が連携した取組】

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 「仙山交流味祭」
（宮城県、山形県、JA 宮城中央会等）
仙台及び山形で開催される、地域の特産品が一堂に会するイベント。 ○ 「ぼくもわたしも産直生産者」
（みやぎ生協、JA みやぎ仙南等）
消費者が、産直生産者から栽培方法を教わり、野菜栽培にチャレンジ。 ○ 「食材王国みやぎ」のサイト運営
（宮城県、JA 宮城、仙台商工会議所等）
生産から加工・流通・消費に至るまでのトータルな食に関する取組をWEB上で展開。
http://www.foodkingdom-miyagi.jp/ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域の関係団体が横断的に連携」
「地産地消推進月間（青森県域）」
農林水産祭実行委員会により、9月～11月の3ヶ月間に「青森県農林水産祭(11月11,12日)」等の多様な行事を開催。 ○ 「地産地消運動（岩手県域）」
地産地消を促進する岩手県協同組合協議会により、「地産地消まつり」などのイベントを開催。 ○ 「地産地消の日（山形県域）」
おいしい山形推進機構、食品スーパーY等により、県内のスーパー・青果店約90店舗で「地産地消の日」を設定。 |
|---|---|

【構成員の取組】

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 食育・地産地消等の取組（各県） ○ 米の消費拡大に向けたイベント
（JA 各県中央会） | <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産者と消費者の交流活動（みやぎ生協） ○ 「24時間テレビ」で県産農産物のチャリティ販売
（JA 宮城青年連盟、女性組織協議会） |
|--|--|

【農政局の取組】

【食料消費面】

- 食の安全と消費者の信頼確保
- 食育の推進と国産農産物の消費拡大
- 地産地消の推進

【農業生産面】

- 担い手の育成・確保
- ニーズに的確に対応した農業生産・流通体制の確立

☆このページに示した取組は、協議会の多様な取組の中の一例です。詳しいお問い合わせは事務局まで。

東北地域食料自給率向上協議会の活動の**詳しい情報**は、
「東北地域食料自給率のホームページ」をご覧ください。
<http://www.tohoku.maff.go.jp/jikyuritu/index.html>
また、協議会との連携をお考えの方は、
事務局（東北農政局企画調整室）まで御一報下さい。



食料自給率向上のためにできること！

食料自給率は、国民のみなさんが国内で作られた食材をより多く食べていくことによって、はじめて向上します。

米、野菜、果物、畜産物、魚介類など良質な食材が豊富な東北において、消費者と生産者が手を取りあい、食料自給率向上に向けて、食事バランスガイドの活用、地産地消など、身近な生活の中で出来ることから取り組んでいきましょう。

○[食事バランスガイド]の実践で健康生活と食料自給率アップ

「食事バランスガイド」は、バランスのとれた食生活を実践していただくために、「何を」「どれだけ」食べたらよいのかを示したものです。

日本の気候・風土に適している米などの穀類を利用したり、地域の産物や旬の食材を取り入れながら、バランスのとれた食事を楽しんでいくことが、みなさんの健康、そして食料自給率向上に結びついていくと考えられます。

(食事バランスガイドは、厚生労働省と農林水産省が作成したものです)

(東北農政局ホームページ

http://www.tohoku.maff.go.jp/syohuianzen/2_syokuiku/syokuiku.html をご覧下さい。)



○地元でとれた農産物を地元で食べる[地産地消]

私たちが住んでいる土地には、その風土や環境に適した農産物が育ちます。身近でとれた農産物は新鮮です。一人一人が地元でとれる食材を選ぶことが、地域の農業を応援することになります。ひいては、国産農産物の応援になります。

生産者も、直売所を増やしたり、地場産農産物の取扱いを増やすなど、頑張っています。お近くの直売所などに、足を運んでみてはいかがでしょうか。

◇農産物直売施設(有人)の設置状況(東北)



東北地域食料自給率向上協議会

事務局 東北農政局

企画調整室 TEL:022-263-1111 (内線 4402、4258)

東北地域の食料自給率に関する情報は「東北地域食料自給率のホームページ」

<http://www.tohoku.maff.go.jp/jikyuritu/index.html> をご覧下さい。



(平成18年8月14日作成)